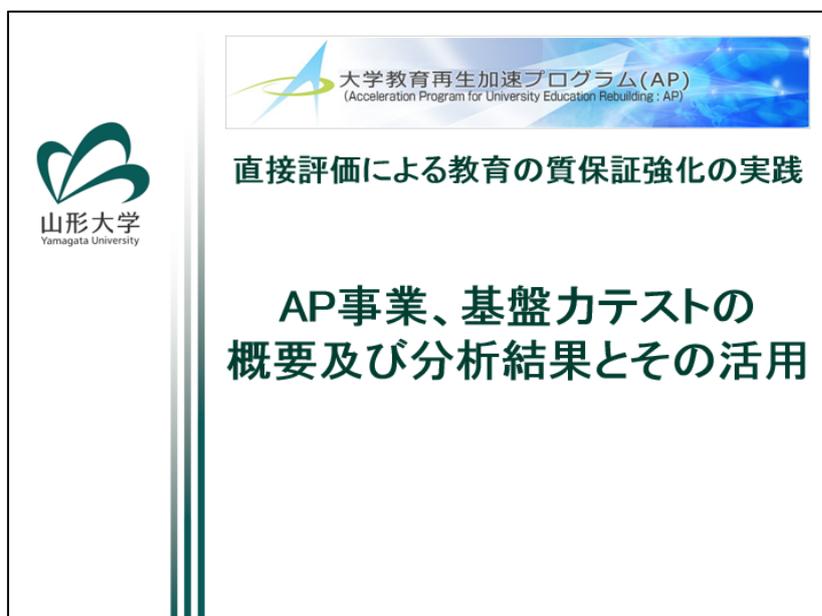


AP シンポジウム

「直接評価による教育の質保証強化の実践」

○司会



皆様、おはようございます。定刻となりましたので、ただ今よりAP シンポジウム「直接評価による教育の質保証強化の実践」を開始いたします。本日、司会進行を務めさせていただきます、山形大学の浅野と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。本シンポジウム開催にあたりまし

ては、台風の影響により、何かとご心配をおかけいたしました。無事、開催できること関係者一同、非常に嬉しく思います。移動の関係で、首都圏の方は新幹線の遅れなどにより、この後、途中からご参加いただく方もいらっしゃると思いますが、終わりの時間は厳守したいというふうに思いますので、ただいまからスタートさせていただきたいと思います。では、早速ではございますが、開催に先立ち、まず共催校を代表して、大阪大学の高等教育・入試研究開発センター長の川嶋先生からひとことごあいさつをお願いいたします。

○川嶋氏

皆さん、おはようございます。ただ今、紹介に預かりました、大阪大学高等教育・入試研究開発センターで、センター長を務めております、川嶋と申します。いま浅野先生から少しお話ありましたけれども、今年はさまざまな地域でと言いますか、豪雨あり、地震あり、そして台風ありと、さまざまな異常気象を経験してございまして、本日も開催できるかどうか、非常に心配してございましたけれども、皆さま方の心がけが非常に良かったということで、予定どおり開催できましたことを、まず喜びたいというふうに思っております。先ほど紹介ありましたけれども、プログラム変更をさせていただきました。その理由は、私、台風の影響で先ほど大阪に着いたばかりで、本来なら昨日中に大阪に戻れることができたんですが、台風のため戻れませんが、今朝戻ったところということで、少し休憩する時間があるということで、午後に回させていただきました。それでのご容赦・ご了承いただければと思います。

今回、そのテーマの学修成果の評価、アセスメントということで、思い起こしますと、平

成 16 年に国立大学が法人化しましたが、その当時勤務しておりました神戸大学で、これからは大学が自立していくためには、デジタルなさまざまなデータを集めて、それをもとにして研究材料にしていく必要があるということで、神戸大学に評価室、英語では Office Institution Research Assessment、OIRA、オイラというのを立ち上げました。まだその当時は、IR そのものもほとんど日本では語られていませんでした。ましてやアセスメントということも、ほとんど大学関係者の間でも、情報が分からなかったという状況でございました。それが十数年経ちまして、日本でも学修の成果をいかにして測定するのかということ。まあアセスメントですけれども、それが非常に大きな課題になってきたということで、責任感を感じているところです。きょうは山形大学さんのほうで、独自に開発したテストで学修成果を評価するというので、非常に先進的な試みをされております。阪大でも遅ればせながら、そういう方向でさまざまな取り組みをしておりますので、その点も含めて、きょうはご紹介いただければというふうに思います。本日、長い時間になりますけれども、皆さま方、有意義な時間となりますよう祈念して、ごあいさつと代えさせていただきたいと思います。どうも本日はご来場いただき、ありがとうございました。